

研修報告 F班2グループ TOKI

1. グループテーマ

大学の役割とは・・・質の高い教育による人材育成

役割に応えるためには・・・質の高い授業が必要である

この大学の役割に対し、授業の現状・問題点を洗い出した結果、学生の意欲を持たせるような授業づくりが大事だという結論となり「学習意欲を高める授業をつくるには」というテーマに決定した。

2. 授業の現状

①一方通行の授業で学生が自ら考えなくても完結してしまう授業である。

教員側からの話を中心に、座学ばかりである。

インプットされただけでアウトプットできていない。

②1日でも授業を休むとついていけない。

講義内容が難しくついていけない。

③講義で学んだことが将来活かせるのかが分からない。

④授業に魅力がなく、興味を持ってない。

授業内容が変わらず、新しい情報が授業内容にあまりない。

3. 解決策の提案

①学生参加型授業にする。クリッカー活用により、授業中に学生に質問に対する回答をさせて、リアルタイムで集計を取ることで一方通行にならない授業づくりの展開ができる。

②授業のインターネット配信。インターネット掲示板などで授業コミュニティを形成し、誰でも質問でき誰でも回答できる状況をつくることにより、質問した人も理解でき、回答した人も理解を深めることができる。間違っていることがあれば担当教員が訂正の書き込みをおこない、能動的な学習が授業以外でも行える。

③シラバスに、科目が将来どういう資格、職に結びつくか明示する。

④授業評価アンケートのフィードバック

受動的な学習から、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的な授業を行う。

4. 学生が授業に興味を持ってないことによる問題点

出席者と欠席者が二極化する。

欠席者つまり授業に興味を持ってない学生は退学していく現状がある。

5. 解決策

授業の質の低下を認識し改革を行う。PDCA サイクルを活用し、授業計画書の作成、授業内容の確認、反省を繰り返し行い質的転換を図る。これにより長期的な授業の質の向上、授業出席率の向上ならびに退学者の減少につなげる。

PDCA サイクルの詳細

P：昨年度の授業評価アンケートを反映した、シラバスとは別の詳細な授業計画書の作成を行う

学部長/教務部長による公開前チェックをしてもらう。

- ・建学の精神、学科の理念や目的にあっているか。
- ・新しいものを取り入れた講義になっているか（毎年同じになっていないか）
- ・昨年度の授業評価アンケートが反映されているか。

D：計画に沿った授業を行う。

C：計画に沿った授業を行っているか調査機関（教員・職員）が抜き打ちチェックをする。最終回に学生による授業評価アンケートの実施をする。

A：授業評価アンケートから教員のランキングを公開。

授業評価が高かった教員に対して表彰を行い、他の教員への模擬授業を行っていただく。

授業計画書に沿った授業を行ってたか調査機関（教員・職員）による評価を行う。

授業アンケートの結果から科目担当教員が授業改善を行い、次回の授業計画書の作成を行う。

6. 研修のまとめ

- ・職員主導で ICT 教育を活用し、教員や経営層を巻き込んでいく重要性を学んだ。
- ・学生側、教員側に立って問題点や解決策、提案を考えることは普段あまり出来ていなかったことだったので、今後の業務遂行する上でもそういう視点は必要だとグループ討議で発見した。
- ・グループ討議で意見を交換する中で、他大学が導入している制度を知る事ができ、それによって自学の課題を知ることができた。
- ・ブレインストーミングによる発散の後、集約する際に何度も本題から離れてしまったので、常に前提としている問題点を念頭に置いて集約することが重要であることを学んだ。
- ・ICT によるシステムの導入には、運用コストの捻出、管理部署の設定、学生・教員・職員が理解できるマニュアル作りなど導入前の基盤作りが重要であることを知った。